

様式第 1 号

令和 7 年 月 日

文部科学大臣 殿

〔設置者の名称〕 独立行政法人国立高等専門学校機構

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 谷 口 功

大学等における修学の支援に関する法律第 3 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	和歌山工業高等専門学校
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学 高等専門学校 専門学校)
大学等の所在地	和歌山県御坊市名田町野島 77
学長又は校長の氏名	井上 示恩
設置者の名称	独立行政法人国立高等専門学校機構
設置者の主たる事務所の所在地	東京都八王子市東浅川町 701-2
設置者の代表者の氏名	理事長 谷口 功
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.wakayama-nct.ac.jp/about/disclosure/study_support/

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。

確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第3条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	学生課教務係・鈴木 将弘	0738-29-8242	kyoumu@wakayama-nct.ac.jp
第2号の1	学生課教務係・鈴木 将弘	0738-29-8242	kyoumu@wakayama-nct.ac.jp
第2号の2	学生課教務係・鈴木 将弘	0738-29-8242	kyoumu@wakayama-nct.ac.jp
第2号の3	学生課教務係・鈴木 将弘	0738-29-8242	kyoumu@wakayama-nct.ac.jp
第2号の4	学生課学生係・弓倉 巧	0738-29-8244	gakusei@wakayama-nct.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 () を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事(役員)名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	和歌山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	知能機械工学科				8	8	7	
	電気情報工学科				8	8	7	
	生物応用化学科 (応用化学コース)				12	12	7	
	生物応用化学科 (生物化学コース)				12	12	7	
	環境都市工学科				8	8	7	
	メカトロニクス 工学専攻				16	16	7	
	エコシステム 工学専攻				10	10	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.wakayama-nct.ac.jp/campuslife/education/syllabus/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	和歌山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/yakuin.pdf （https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01）
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2026 年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理 工学府長・研究院長	2024年4月 1日～2026 年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月 1日～2026 年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	和歌山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスは教務委員会で確認の上、国立高専のWebシラバスシステムにより、統一的なスケジュールで作成している。Webシラバスは4月に公表しており、本校ホームページにリンクを貼り公表している。	
授業計画書の公表方法	https://www.wakayama-nct.ac.jp/campuslife/education/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本校の学業成績評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則で「成績評価は、試験の得点及び平常点(授業への出席状況、授業への取組状況、課題やレポートなどの評価を総合的に評価したもの)により、100点法で評価する」と定められており、学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定している。	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本校の学業成績評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則で「成績評価は、試験の得点及び平常点（授業への出席状況、授業への取組状況、課題やレポートなどの評価を総合的に評価したもの）により、100点法で評価する」と定められており、全科目の成績評価の平均点により、学生の席次を決定する。成績の分布状況は、成績判定会で諮られる成績一覧表によって把握しているので、成績評価において、客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施している。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.wakayama-nct.ac.jp/campuslife/education/syllabus/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本校では、「教育理念」に基づく5年間の一貫教育を通じて、エンジニアに必要な一般教養と専門知識・技能を身につけ、工学的技術への興味・関心や豊かな人間性・国際性を育むことにより、工学分野に関わる課題を、環境との調和に配慮しながら創造的に解決できる能力を備えた学生に対して卒業を認定する。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.wakayama-nct.ac.jp/about/introduction/philosophy/faculty_policy/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	和歌山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: 独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度: 令和7年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画 (名称: 独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度: 令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.wakayama-nct.ac.jp/wp-content/uploads/2023/12/annualreport2019.pdf

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 知能機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法：学則第 7 条の 2 https://www.wakayama-nct.ac.jp/media/rules/gakusokuR50401.pdf#page=2)
(概要) 幅広い産業における機器やシステムの設計、開発、研究、保守、操業等の業務において、創造的かつ主体的に取り組むための基礎技術や制御・知能化技術を含めた総合力を身につけ、日々進歩する科学技術を推進できる基本的学識と知的好奇心を備えた機械技術者の養成
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/im/policy/)
(概要) ・機械工学分野に関する幅広い最新の知識・技術を活用して課題を解決できる能力 ・地球環境の保全、地域社会との共生など、公共の安全・利益に配慮した倫理的な考え方ができる能力 ・学問的知識を駆使し、諸問題を的確に理解・分析し論理的に思考できる能力 ・国内外で通用するコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/im/policy/)
(概要) ・機械工学分野に関する幅広い最新の知識・技術を活用して課題を解決できる能力を身につけるため、①力学材料系、②熱流体系、③設計工作系、④情報制御系の専門科目を開講し、教授します。 ・地球環境の保全、地域社会との共生など、公共の安全・利益に配慮した倫理的な考え方ができる能力を身につけるため、①人文・社会系、②数学・自然科学系、③保健・体育系、④芸術系、⑤語学系の一般科目を開講し、教授します。 ・学問的知識を駆使し、諸問題を的確に理解・分析し論理的に思考できる能力を教授します。 ・国内外で通用するコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけるため、機械工学分野に関する演習・実験・実習・卒業研究やインターンシップなどの実践的科目を開講し、教授します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/im/policy/)
(概要) ・ロボットなどの知的機械を自作するための知識と技術を学びたい人 ・自らの工夫で新しい装置を創造する意欲のある人 ・機械工学を通して人と地球にやさしい社会の形成に貢献したい人

学部等名 電気情報工学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：学則第7条の2 https://www.wakayama-nct.ac.jp/media/rules/gakusokuR50401.pdf#page=2)</p>
<p>(概要) 私たちの豊かな生活を支え、社会、産業の発展に大きく寄与している電気・電子・情報・通信などの基礎技術を身につけ、日々進歩し続ける電気情報技術に柔軟に対応できる課題発見解決型の電気情報技術者の養成</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/ec/policy/)</p>
<p>(概要) ・電気工学分野及び情報工学分野に関する幅広い最新の知識・技術を活用して課題を解決できる能力 ・地球環境の保全、地域社会との共生など、公共の安全・利益に配慮した倫理的な考え方ができる能力 ・学問的知識を駆使し、諸問題を的確に理解・分析し論理的に思考できる能力 ・国内外で通用するコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/ec/policy/)</p>
<p>(概要) ・電気工学分野及び情報工学分野に関する幅広い最新の知識・技術を活用して課題を解決できる能力を身につけるため、①基礎理論系、②電力システム系、③デバイス・制御系、④知能情報系、⑤実践・応用系の専門科目を開講し、教授します。 ・地球環境の保全、地域社会との共生など、公共の安全・利益に配慮した倫理的な考え方ができる能力を身につけるため、①人文・社会系、②数学・自然科学系、③保健・体育系、④芸術系、⑤語学系の一般科目を開講し、教授します。 ・学問的知識を駆使し、諸問題を的確に理解・分析し論理的に思考できる能力を教授します。 ・国内外で通用するコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけるため、電気工学及び情報工学分野に関する演習・実験・実習・卒業研究やインターンシップなどの実践的科目を開講し、教授します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/ec/policy/)</p>
<p>(概要) ・電気エネルギーで私たちの社会を豊かにしたい人 ・アプリや人工知能のしくみを学びたい人 ・ロボットなどを思い通りに動かすための知識と技術を学びたい人</p>

学部等名 生物応用化学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：学則第7条の2 https://www.wakayama-nct.ac.jp/media/rules/gakusokuR50401.pdf#page=2)</p>
<p>(概要) 人々の生活を支える様々な物質について、化学および生物工学に基づく基礎的理解と工学的センスを身につけ、ものづくりに誇りを持って地球環境保全の立場から人類に役立つ物質を実践的に創造できる化学・生物工学技術者の養成</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/ac/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応用化学分野及び生物工学分野に関する幅広い最新の知識・技術を活用して課題を解決できる能力 ・ 地球環境の保全、地域社会との共生など、公共の安全・利益に配慮した倫理的な考え方ができる能力 ・ 学問的知識を駆使し、諸問題を的確に理解・分析し論理的に思考できる能力 ・ 国内外で通用するコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/ac/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応用化学分野及び生物工学分野に関する幅広い最新の知識・技術を活用して課題を解決できる能力を身につけるため、①数理工学系、②化学系、③生物系、④化学・生物工学系の専門科目を開講し、教授します。 ・ 地球環境の保全、地域社会との共生など、公共の安全・利益に配慮した倫理的な考え方ができる能力を身につけるため、①人文・社会系、②数学・自然科学系、③保健・体育系、④芸術系、⑤語学系の一般科目を開講し、教授します。 ・ 学問的知識を駆使し、諸問題を的確に理解・分析し論理的に思考できる能力を教授します。 ・ 国内外で通用するコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけるため、応用化学及び生物工学分野に関する演習・実験・実習・卒業研究やインターンシップなどの実践的科目を開講し、教授します。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/ac/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 化学的に、人に役立つ物質を作ったり、新しい物質・素材を発明したい人 ・ 生物の力を活かして有用な物質を作ったり、未知の生体に関連する物質を発見したい人 ・ 国際性を身につけつつ、地域の特徴や環境に配慮したものづくりをしたい人

学部等名 環境都市工学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：学則第7条の2 https://www.wakayama-nct.ac.jp/media/rules/gakusokuR50401.pdf#page=2)</p>
<p>(概要) 地震や津波に対する防災技術、地球温暖化問題に対する環境保全・自然との共生をはかる環境マネジメント技術、機能的で快適な街をつくる都市計画技術、橋梁など社会基盤の構造設計技術などを身につけ、グローバルデザイン能力に優れた創造的技術者の養成</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/ce/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土木工学分野に関する幅広い最新の知識・技術を活用して課題を解決できる能力 ・地球環境の保全、地域社会との共生など、公共の安全・利益に配慮した倫理的な考え方ができる能力 ・学問的知識を駆使し、諸問題を的確に理解・分析し論理的に思考できる能力 ・国内外で通用するコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/ce/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土木工学分野に関する幅広い最新の知識・技術を活用して課題を解決できる能力を身につけるため、①情報系、②構造系、③材料系、④地盤系、⑤水理系、⑥測量系、⑦計画系、⑧環境系の専門科目を開講し、教授します。 ・地球環境の保全、地域社会との共生など、公共の安全・利益に配慮した倫理的な考え方ができる能力を身につけるため、①人文・社会系、②数学・自然科学系、③保健・体育系、④芸術系、⑤語学系の一般科目を開講し、教授します。 ・学問的知識を駆使し、諸問題を的確に理解・分析し論理的に思考できる能力、を教授します。 ・国内外で通用するコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけるため、土木工学分野に関する演習・実験・実習・卒業研究やインターンシップなどの実践的科目を開講し、教授します。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/ce/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街・道・港・橋などをつくりたい人 ・地球環境を守りたい人 ・災害から人の命を守りたい人

学部等名	メカトロニクス工学専攻
教育研究上の目的	(公表方法：学則第42条の2 https://www.wakayama-nct.ac.jp/media/rules/gakusokuR50401.pdf#page=7)
(概要)	機械工学，電気電子工学及び情報工学の知識を基礎に，持続可能な社会の形成に活かせる創造力，多面的に問題を発見し解決する能力，豊かな人間性と国際性を備え，メカトロニクスに関する研究開発能力に優れた技術者となりうる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針	(公表方法： https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/graduate/policy/)
(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ・機械工学・制御工学・電気電子工学・情報工学分野のうち自ら選択するコアを中心とした深い知識と多くの経験に基づく技術、その他幅広い知識と技術を活用し多面的に問題を解決できる能力 ・地域環境、地域社会との共生に関する理解および倫理観を身につけ、公共の安全・利益に配慮したものづくりの考え方ができる能力 ・得られた深い学問的知識を駆使し、諸問題を的確に理解・分析する論理的能力 ・国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力
教育課程の編成及び実施に関する方針	(公表方法： https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/graduate/policy/)
(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域環境、地域社会との共生に関する理解、倫理観、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力など幅広い知識を身につけるため①社会系、②語学系、③工業倫理などの一般科目を開講し、教授します。 ・幅広い知識を身につけるため専門共通科目を機械工学、制御工学、電気電子工学、情報工学分野に関する深い学問的知識を身につけるため専門専攻科目を開講し、教授します。 ・工学的に考察する能力と技術力、諸問題を的確に理解・分析する論理的能力、地域環境や地域社会を考慮し公共の安全・利益に配慮したものづくりの考え方ができる能力、多面的に問題を解決できる能力、プレゼンテーション能力を身につけるため、機械工学、制御工学、電気電子工学、情報工学分野に関するゼミナールや実験、特別研究などの実践的科目を開講し、教授します。
入学者の受入れに関する方針	(公表方法： https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/graduate/policy/)
(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い専門性や論理性を身に付けた技術者として、持続可能な社会の形成に貢献したい人 ・自主的・継続的に学習や研究に取り組み、自己の向上を目指したい人 ・技術者教育を受けるために必要な専門基礎や英語などについての基礎能力を持っている人 ・企業において、技術者としての基礎能力を有し、更に自己の能力を伸ばしたいと考える人

学部等名 エコシステム工学専攻
<p>教育研究上の目的 (公表方法：学則第42条の2 https://www.wakayama-nct.ac.jp/media/rules/gakusokuR50401.pdf#page=7)</p>
<p>(概要) 応用化学，生物工学，環境工学，土木工学の知識を基礎に，持続可能な社会の形成に活かせる創造力，多面的に問題を発見し解決する能力，豊かな人間性と国際性を備え，エコシステムに関する研究開発能力に優れた技術者となりうる人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/graduate/policy/)</p>
<p>(概要) ・応用化学・生物工学・環境工学・土木工学分野のうち自ら選択するコアを中心とした深い知識と多くの経験に基づく技術、その他幅広い知識と技術を活用し、多面的に問題を解決できる能力 ・地域環境、地域社会との共生に関する理解および倫理観を身につけ、公共の安全・利益に配慮したもののづくりの考え方ができる能力 ・得られた深い学問的知識を駆使し、諸問題を的確に理解・分析する論理的能力 ・国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/graduate/policy/)</p>
<p>(概要) ・地域環境、地域社会との共生に関する理解、倫理観、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力など幅広い知識を身につけるため①社会系、②語学系、③工業倫理などの一般科目を開講し、教授します。 ・幅広い知識を身につけるため専門共通科目を応用化学、生物工学、環境工学、土木工学分野に関する深い学問的知識を身につけるため専門専攻科目を開講し、教授します。 ・工学的に考察する能力と技術力、諸問題を的確に理解・分析する論理的能力、地域環境や地域社会を考慮し公共の安全・利益に配慮したもののづくりの考え方ができる能力、多面的に問題を解決できる能力、プレゼンテーション能力を身につけるため、応用化学、生物工学、環境工学、土木工学分野に関するゼミナールや実験、特別研究などの実践的科目を開講し、教授します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/department/graduate/policy/)</p>
<p>(概要) ・幅広い専門性や論理性を身につけた技術者として、持続可能な社会の形成に貢献したい人 ・自主的・継続的に学習や研究に取り組み、自己の向上を目指したい人 ・技術者教育を受けるために必要な専門基礎や英語などについての基礎能力を持っている人 ・企業において、技術者としての基礎能力を有し、更に自己の能力を伸ばしたいと考える人</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/wp-content/uploads/2024/07/258ea7c4b1aacf4ca39277e95b36af34.pdf#page=7</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
知能機械工学科	—	3人	3人	1人	1人	0人	8人
電気情報工学科	—	3人	4人	0人	1人	0人	8人
生物応用化学科	—	5人	3人	0人	1人	0人	9人
環境都市工学科	—	3人	5人	1人	1人	0人	10人
総合教育科	—	7人	4人	2人	7人	0人	20人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			24人				24人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/plugin/rmaps/index/11/122?search_keyword=&affiliation=6640					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
知能機械工学科	40人	40人	100%	200人	198人	99.0%	若干名	1人
電気情報工学科	40人	40人	100%	200人	208人	104.0%	若干名	0人
生物応用化学科	40人	41人	102.5%	200人	205人	102.5%	若干名	1人
環境都市工学科	40人	41人	102.5%	200人	202人	101.0%	若干名	2人
メカトロニクス工学専攻	8人	8人	100%	16人	18人	112.5%	0人	0人
エコシステム工学専攻	8人	10人	125%	16人	20人	125.0%	0人	0人
合計	176人	180人	102.3%	832人	851人	102.3%	若干名	4人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
知能機械工学科	38人 (100%)	12人 (31.6%)	26人 (68.4%)	0人 (0%)
電気情報工学科	41人 (100%)	14人 (34.1%)	23人 (56.1%)	4人 (9.8%)
生物応用化学科	36人 (100%)	11人 (30.6%)	25人 (69.4%)	0人 (0%)
環境都市工学科	40人 (100%)	10人 (25.0%)	30人 (75.0%)	0人 (0%)
メカトロニクス工学専攻	11人 (100%)	0人 (0%)	11人 (100%)	0人 (0%)
エコシステム工学専攻	10人 (100%)	1人 (10.0%)	9人 (90.0%)	0人 (0%)
合計	176人 (100%)	48人 (27.3%)	124人 (70.5%)	4人 (2.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
シラバスは国立高専の Web シラバスシステムにより、統一的なスケジュールで作成している。Web シラバスの公開ページは 4 月に公表されるが、Web シラバスでの公表と併せて、本校ホームページでも公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
本校の学業成績評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則で「成績評価は、試験の得点及び平常点（授業への出席状況、授業への取組状況、課題やレポートなどの評価を総合的に評価したもの）により、100点法で評価する」と定められており、学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	知能機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気情報工学科	167 単位	有・無	単位
	生物応用化学科	167 単位	有・無	単位
	環境都市工学科	167 単位	有・無	単位
	メカトロニクス 工学専攻	62 単位	有・無	単位
	エコシステム 工学専攻	62 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.wakayama-nct.ac.jp/about/campus/affiliated_facilities/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	知能機械 工学科	234,600円	84,600円	備考のとおり※1	※1: 学生会入会金 500円 (入学時のみ) 学生会費 7,800円 (年額) 教科書・教材・実習服等 約90,000円 後援会入会金 15,000円 (入学時のみ、 兄弟姉妹が在学中の場合 免除) 後援会費 26,000円 (年額、日本 スポーツ振興センター 共済掛金1,550円を含む) 寮生会費 120円 (月額) (寮生のみ) 寄宿料 800円 (月額) (寮生のみ)
	電気情報 工学科				
	生物応用 化学科				
	環境都市 工学科				
	メカトロ ニクス 工学専攻	234,600円	84,600円	備考のとおり※2	※2: 教科書等 約30,000円 後援会入会金 15,000円 (入学時のみ、 本科5年生より持ち上がり 又は兄弟が在学中の場合は 免除) 後援会費 26,000円 (年額、日本 スポーツ振興センター 共済掛金1,550円を含む) 寮生会費 120円 (月額) (寮生のみ) 寄宿料 800円 (月額) (寮生のみ)
	エコ システム 工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 修学支援として、(独)日本学生支援機構をはじめとする各種奨学金によって、毎年大勢の学生が奨学金の貸与もしくは給付を受けている。また、授業料免除は、授業料等の免除および徴収猶予委員会において適正に審査を行い、高等教育修学支援新制度によって支援できない学生のうちで、支援対象となる学生について、(独)国立高等専門学校機構本部に申請手続きを行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生の進路指導については、早い段階から各学科で取り組み始め、4年次夏季休暇中のインターンシップ(学外実習)を契機に、自分の進路を真剣に考えさせるように進路アンケートを実施し、それをもとに担任が個人面談を行い指導する。その後、3,4年生を対象に進路指導説明会および産業勉強会を実施する。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 教育の一環として、学生の心の成長や修学を含む学校生活の充実の促進、さまざまな問題や悩みを抱えた学生のサポートを目的として学生相談室が設置されている。相談室長1名(教員)、副相談室長1名(教員)、副相談室長が所属する専門学科を除く各専門学科と総合教育科の教員4名、寮務係長、看護師、スクールカウンセラー2名、ソーシャルスキルワーカー、計11名を相談員とし、事務面を学生課長と学生課学生係がサポートしている。 また、スクールカウンセラーは、専門的立場から、カウンセリング・心理アセスメントを通して、自己理解の補助や心理的問題の軽減を図り、相談者の問題点が発達障害に起因するものについてはソーシャルスキルワーカーと連携して対応している。 ソーシャルスキルワーカーは発達障害等に起因する困り感を訴える学生に対して個人別ソーシャルスキル向上プログラムの提案とトレーニングを行う。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://www.wakayama-nct.ac.jp/about/disclosure/education_info/
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	G130110109407
学校名 (〇〇大学 等)	和歌山工業高等専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		67人（ ）人	71人（ ）人	-（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	37人	41人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅲ区分	-	12人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅳ区分(理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分(多子世帯)	11人	-	
	区分外(多子世帯)	0人	0人	
家計急変による 支援対象者(年間)				-
合計(年間)				79人()人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	-
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	-
計	人	0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期	
	0人	0人	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
		年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	-	-

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
		年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	-	-	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人	0人
計	人	-	-	0人
(備考)				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。